

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月14日
【四半期会計期間】	第79期第3四半期（自2019年10月1日至2019年12月31日）
【会社名】	太陽誘電株式会社
【英訳名】	TAIYO YUDEN CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 登坂 正一
【本店の所在の場所】	東京都中央区京橋2丁目7番19号
【電話番号】	03(6757)8310(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部次長 穴井 公之
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区京橋2丁目7番19号
【電話番号】	03(6757)8310(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部次長 穴井 公之
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第78期 第3四半期 連結累計期間	第79期 第3四半期 連結累計期間	第78期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (百万円)	207,528	214,095	274,349
経常利益 (百万円)	26,789	28,329	34,351
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	20,049	19,998	23,687
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	18,422	17,759	21,084
純資産額 (百万円)	206,268	216,840	205,953
総資産額 (百万円)	331,827	348,546	328,861
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	162.07	158.53	189.93
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	157.57	158.13	185.87
自己資本比率 (%)	62.0	62.1	62.5

回次	第78期 第3四半期 連結会計期間	第79期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	71.06	37.18

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。
また、当社グループは、電子部品事業の単一セグメントであるため、セグメント情報に関連付けた記載を行っておりません。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）における当社グループを取り巻く経営環境は、アジアや欧州で弱さがみられるものの世界経済全体として緩やかな回復が続きました。先行きについては、通商問題の動向、中国経済の先行き、為替動向などに留意が必要ですが、引き続き緩やかな回復が期待されます。

当社グループは、研究開発力や生産技術の強みを活かした最先端商品および高信頼性商品に加え、コア技術を活かしたソリューションビジネスを軸に、自動車、情報インフラ、産業機器、ヘルスケア、環境・エネルギーなどの注力市場を攻略することにより、中期目標の達成および経営ビジョンの実現を目指しています。また、収益性の向上や将来の部品需要の増加に応える体制を構築するため、ものづくり力の強化を進めています。生産能力の増強に加え、要素技術の高度化と生産工法の変革を進めることで、生産効率の向上を加速していきます。

電子化・電装化が進行する自動車向け、通信システムの高度化やIoTの進展に伴い高性能化が進む基地局通信装置・データセンタなどの情報インフラ向けでは、大型・高耐圧・高信頼の部品需要が増加いたしました。

当第3四半期連結累計期間の連結売上高は2,140億95百万円（前年同期比3.2%増）、営業利益は297億45百万円（前年同期比12.3%増）となりました。経常利益は、為替差損9億96百万円などにより283億29百万円（前年同期比5.7%増）となりました。また、2019年10月に発生した台風19号の影響で浸水被害が発生した子会社の福島太陽誘電株式会社にかかる災害による損失など特別損失43億60百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は199億98百万円（前年同期比0.3%減）となりました。

当第3四半期連結累計期間における期中平均の為替レートは1米ドル108.90円と前年同期の平均為替レートである1米ドル110.44円と比べ1.54円の円高となりました。

製品別の売上高は次のとおりであります。

[コンデンサ]

積層セラミックコンデンサなどが含まれます。

当第3四半期連結累計期間は、情報機器向け、通信機器向け、自動車向け、情報インフラ・産業機器向けの売上が前年同期比で増加しました。その結果、売上高は1,327億19百万円（前年同期比4.1%増）となりました。

[フェライト及び応用製品]

巻線インダクタ、積層チップインダクタなどの各種インダクタ商品が含まれます。

当第3四半期連結累計期間は、民生機器向け、情報機器向け、通信機器向け、情報インフラ・産業機器向けなどの売上が前年同期比で減少しました。その結果、売上高は296億80百万円（前年同期比8.3%減）となりました。

[複合デバイス]

モバイル通信用デバイス（FBAR/SAW）、電源モジュール、高周波モジュール、部品内蔵配線板「EOMIN™（イオミン）」、関係会社における実装事業などが含まれます。

当第3四半期連結累計期間は、モバイル通信用デバイス（FBAR/SAW）などの売上が前年同期比で増加したことにより、売上高は385億82百万円（前年同期比3.8%増）となりました。

[その他]

アルミニウム電解コンデンサ、エネルギーデバイスなどが含まれます。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、子会社のエルナー株式会社（前期の第2四半期連結会計期間より計上）のアルミニウム電解コンデンサなどが加わり、131億14百万円（前年同期比25.1%増）となりました。

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に対して196億85百万円増加しました。そのうち流動資産は64億23百万円増加しており、主な要因は、受取手形及び売掛金の増加76億89百万円、仕掛品の増加28億92百万円、現金及び預金の減少49億27百万円であります。また、固定資産は132億61百万円増加しており、主な要因は、有形固定資産の増加142億99百万円であります。

負債は87億98百万円増加しました。主な要因は、その他流動負債の増加64億26百万円、長期借入金の増加63億43百万円、短期借入金の減少29億52百万円、賞与引当金の減少22億70百万円であります。

純資産は108億86百万円増加しました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は、96億26百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000,000
計	300,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	130,218,481	130,218,481	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株であり ます。
計	130,218,481	130,218,481		

(注) 提出日現在発行数には、2020年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日	-	130,218,481	-	33,575	-	51,468

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,714,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 125,345,600	1,253,456	-
単元未満株式	普通株式 158,581	-	-
発行済株式総数	130,218,481	-	-
総株主の議決権	-	1,253,456	-

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式8株が含まれております。

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 太陽誘電株式会社	東京都中央区京橋 2丁目7番19号	4,714,300	-	4,714,300	3.62
計	-	4,714,300	-	4,714,300	3.62

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	56,430	51,503
受取手形及び売掛金	62,745	70,434
商品及び製品	21,065	19,291
仕掛品	25,907	28,800
原材料及び貯蔵品	13,974	14,326
その他	5,972	8,210
貸倒引当金	238	284
流動資産合計	185,858	192,281
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	94,768	96,851
機械装置及び運搬具	263,270	273,361
工具、器具及び備品	26,089	27,409
土地	11,022	10,970
建設仮勘定	10,468	20,095
減価償却累計額	280,102	288,871
有形固定資産合計	125,517	139,816
無形固定資産		
のれん	5,837	5,364
その他	1,219	1,266
無形固定資産合計	7,056	6,630
投資その他の資産		
投資有価証券	4,760	4,043
その他	6,001	6,102
貸倒引当金	332	328
投資その他の資産合計	10,428	9,816
固定資産合計	143,003	156,264
資産合計	328,861	348,546

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,031	26,914
短期借入金	23,152	20,200
1年内返済予定の長期借入金	2,477	2,663
未払法人税等	5,085	3,311
賞与引当金	4,167	1,897
役員賞与引当金	258	241
その他	21,825	28,251
流動負債合計	81,997	83,479
固定負債		
長期借入金	28,415	34,759
役員退職慰労引当金	132	52
退職給付に係る負債	3,742	3,934
その他	8,619	9,481
固定負債合計	40,910	48,226
負債合計	122,907	131,706
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,575	33,575
資本剰余金	49,904	49,903
利益剰余金	135,217	152,242
自己株式	4,613	8,594
株主資本合計	214,083	227,127
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,519	1,438
繰延ヘッジ損益	2	26
為替換算調整勘定	9,703	11,865
退職給付に係る調整累計額	401	369
その他の包括利益累計額合計	8,583	10,822
新株予約権	453	535
純資産合計	205,953	216,840
負債純資産合計	328,861	348,546

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	207,528	214,095
売上原価	146,085	147,804
売上総利益	61,443	66,291
販売費及び一般管理費	34,950	36,545
営業利益	26,493	29,745
営業外収益		
受取利息	306	271
受取配当金	141	145
為替差益	436	-
助成金収入	382	94
その他	200	112
営業外収益合計	1,466	623
営業外費用		
支払利息	261	263
持分法による投資損失	478	480
為替差損	-	996
株式交付費	144	-
休止固定資産減価償却費	132	177
その他	153	122
営業外費用合計	1,170	2,039
経常利益	26,789	28,329
特別利益		
固定資産売却益	13	146
投資有価証券売却益	37	16
段階取得に係る差益	249	-
受取保険金	-	1,005
特別利益合計	299	1,168
特別損失		
固定資産除売却損	247	452
減損損失	75	76
災害による損失	-	3,371
投資有価証券評価損	52	17
事業構造改善費用	1,978	-
独占禁止法関連損失	502	426
その他	27	15
特別損失合計	2,882	4,360
税金等調整前四半期純利益	24,206	25,137
法人税、住民税及び事業税	4,657	4,020
法人税等調整額	500	1,118
法人税等合計	4,156	5,139
四半期純利益	20,049	19,998
親会社株主に帰属する四半期純利益	20,049	19,998

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	20,049	19,998
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	542	80
繰延ヘッジ損益	66	28
為替換算調整勘定	1,144	2,161
退職給付に係る調整額	6	31
その他の包括利益合計	1,626	2,239
四半期包括利益	18,422	17,759
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	18,422	17,759

【注記事項】

(会計方針の変更)

国際財務報告基準を適用する在外子会社において、第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」を適用し、借手の会計処理として原則すべてのリースについて資産及び負債を計上しております。また、経過措置として認められている当該会計基準の適用による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用しております。当該会計基準の適用が四半期連結財務諸表に及ぼす影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
受取手形	61百万円	81百万円

(四半期連結損益計算書関係)

災害による損失及び受取保険金

2019年10月に発生した台風19号の影響により、当社子会社の福島太陽誘電株式会社(福島県伊達市)において被害が発生し、その災害による損失額を「災害による損失」として計上しております。

また、災害発生に伴う損害保険金を「受取保険金」として計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
減価償却費	19,353百万円	19,632百万円
のれんの償却額	315	473

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,178	10	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金
2018年11月9日 取締役会	普通株式	1,276	10	2018年9月30日	2018年12月4日	利益剰余金

(2) 株主資本の金額の著しい変動

当社は、当第3四半期連結累計期間において、転換社債型新株予約権付社債に付されている新株予約権の全てについて権利行使があったことに伴う新株の発行により、資本金10,017百万円、資本準備金10,017百万円がそれぞれ増加しております。

当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,404	11	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金
2019年11月11日 取締役会	普通株式	1,380	11	2019年9月30日	2019年12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは電子部品事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	162円07銭	158円53銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	20,049	19,998
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	20,049	19,998
普通株式の期中平均株式数(千株)	123,708	126,150
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	157円57銭	158円13銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)	2	-
(うち社債利息(税額相当分控除後)(百万円))	(2)	(-)
普通株式増加数(千株)	3,518	318
(うち転換社債型新株予約権付社債(千株))	(3,245)	(-)
(うち新株予約権(千株))	(272)	(318)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2019年11月11日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(1) 中間配当による配当金の総額.....1,380百万円

(2) 1株当たりの金額.....11円00銭

(3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2019年12月2日

(注) 2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月14日

太陽誘電株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	平井 清	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	岩宮 晋伍	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	今井 仁子	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている太陽誘電株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、太陽誘電株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。